

がいた。古賀は、窓際に一人ポツンと座る若い女の子が気になった。終了後、自分から話を聞きに来た女の子に裁判のことを話すと、すぐに加わりたいと言う。「闘う気持ちが強い」と直感した。

初めての裁判で、福田は裁判所前に集まる若者たちの姿に目を留めた。何者？と不審に思ったが、彼らは訴訟を支援する学生だという。患者の家族でも恋人でもないのに立ち上がってくれる人がいるなんて。その場で、実名公表を決めた。

「自分に起きたことを多くの人に話すことが、誰かの役に立つかもしれないとわかった時、嬉しかった。学生たちを前に話し、涙を流した時、久々に生きていると感じられました」

母の教育の賜物か生来のものか、福田は自分の内面を表現する「言葉」を持っていた。長崎大医学部生で支援学生の中心にいた長哲太郎は、福田の言葉で初めてリアルに苦しみを想像できた。

「痒いというのがどれほど辛いのか。思わず僕の方が涙が出た。他のメンバーも泣いてました」

前述の古賀も福田の言葉の力に驚いた一人だ。「掘り下げれば掘り下げるほど、心の奥から言葉が出てきた。彼女自身の感性で紡ぎ出した言葉だったからこそ、人の心を打ったのだと思います」その感性を感じさせるものに、福田が裁判中に作った刺繍がある。テーマはミジンコ。透明な殻越しに見える小さな臓器を色とりどりの糸で表し、大きな目を縫い取った。福田はミジンコに、肝炎患者の境遇を重ねた。国や製薬会社から見れば私たちはミジンコ同然。でも私たちは必死に生き、声なき声を発している。

福田のお洒落も自分らしさの表現だ。買った服に刺繍したり、母の箆笥に眠るペンダントをピアスにしたり。目元にはグラデーションのアイシャドー、マスカラもたっぷり。「患者」らしからぬ外見と、

長崎弁で繰り出す鋭い言葉が、人々を惹きつけた。「C型肝炎のままで好きな人を幸せにできません。子どもを産む勇気もありません。C型肝炎は、私たちから青春を奪いました。結婚や出産、社会人として生きていこうとする道も奪いました。私たちに一刻も早く、明日の夢を描くことのできる今日を返して下さい」

高校時代からの親友、中山聡子は、注目を集めていく福田に目を見張っていた。

「必要とされている実感があるんだなって。それまで命を蝕んでいた病気が、逆に彼女の命を輝かせているようで、羨ましい気さえしました」

治療成功、でも嬉しくない 自分だけ治っていいの

福田に「必要とされている実感」を与えたのは、原告になれない人を含め全国に350万人いるとされる肝炎患者だった。多くは国の薬事行政や感染症対策の誤りによって感染した。薬害の裁判で勝って国の肝炎対策が変われば、彼らを救える。その使命感が前へ前へと進ませた。だが06年12月、一瞬、福田を立ち止まらせる出来事が起きる。

「病院の先生から電話があつて、ウイルスが陰性だったつてよ。帰ったらお祝いせんばいけんね」裁判の合間を縫って受けた二度目のインターフエロン治療の成功を、母が電話で知らせてきた。声を弾ませる母に「わかった、ありがと」だけ言つてすぐに電話を切った。なぜか喜びがこみ上げてこなかった。抜け駆けしてしまったような後悔の悪さ。原告には、治療を始めることすらできていない人もいるのに自分だけ今、治ってしまったていいの。弁護団に伝えると「よかったですね。で



支援者からもらった人形を撮って、早速自身のブログに筆まめで、全国から寄せられる応援の手紙のほとんどに自筆で返事を書く

も家族だけで祝ってください」という冷めた反応が返ってきた。肝炎じゃない福田衣理子は、必要ないということ？ 自分の存在意義って何？ その問いは保留のまま、福田の胸の奥にしまわれた。裁判では、薬の種類や投与時期によって救済範囲を線引きする判決が相次いでいた。「全員救済」のためには政治を動かすしかない。ある議員から、政治家自身が肝炎問題を知らないと言った福田は、一人で議員会館を訪ね回るようになる。スーツ姿が行き交う会館内を、女の子らしいワンピースとメイクで歩き回る福田は、議員たちの間で「薬害肝炎の女の子が訪ねて来たか」と話題になった。福田にしてみれば、とっつきにくく見えた議員が、親身になって話を聞いてくれるのが嬉しかった。遠い世界に思っていた「政治」が、急に身近に感じられた。面会がきっかけで動いてくれる議員も出始めた。同時に、官僚に阻まれ、政治家の約束が反故にされる現実が絶望しかけた。しかし、原告たちの決死の抗議行動が連日報じられるようになる。世論も味方し、支持率低下にあえいでいた福田康夫総理（当時）は07年12月、遂に「全員一律救済」を表明。翌1月には、薬害肝炎救済法がスピード成立し、裁判も和解した。世間では、薬害肝炎の物語は、ここでハッピーエンドと受け止められた。

が、原告団にとって、和解はあくまでスタートに過ぎなかった。恒久的な肝炎の治療体制確立を求め、各党の肝炎対策プロジェクトチームと治療